



日野稲門会

がわら版

第2号

日野稲門会事務局

日野市南平 1-34-11-402

生川方 ☎042-593-7290

編集責任者: 五十嵐 耕一

会長ごあいさつ

日野稲門会会長 小笠原 豊 (昭40・政経)

昨年6月の定例総会はコロナ化で中止になり重要項目でありました役員改選が延期となる中、ここに改めて臨時総会の主議題として役員改選を提起する運びになりました。役員改選の大きな理由は組織若返りの人事刷新と執行体制の強化が主眼であり、ここ1年半の経験と成果は実証されるでしょう。そこで日野稲門会は世代交代へといよいよ大きく舵を切ります。その背景として、近年校友会においては比較的若い世代の卒業年次稲門会の台頭とそれに伴うSNSの普及、また東京支部・三多摩支部稲門会役員の若返りの顕著などが考えられます。本会も次の創立50周年に向け、今から時代感覚を備え、地に足をしっかりと付けて更なる日野稲門会発展の為に、新年度4月より良きスタートが切れると確信いたします。



イベント予告 今秋、第2回美術作品展を開催。配偶者の出展也大歓迎！

一昨年夏に、当会40周年記念事業として開催した美術作品展の第2回目を今秋開催いたします。今回は、出展対象者を会員のみならず、その配偶者まで広げ、更に作品部門に工芸関係を加えて、幅広い方々から、多種多彩な作品が集まることを期待しています。是非、奮ってご応募下さい。

1. 開催時期 令和3年10月下旬を予定
 2. 開催場所 ひの煉瓦ホール(日野市民会館)展示室
 3. 応募資格 当会会員及びその配偶者
 4. 出品料 1人2000円
 5. 作品部門 絵画、書道、陶芸、彫刻、写真、工芸等を一人5点まで
 6. 応募締切 令和3年3月末日
 7. 申込・問い合わせ先 宮本誠二(美術作品展統括責任者)
- Eメール seiji-74.511@ivory.plala.or.jp 携帯 080-3205-0583

臨時総会の開催について

1. 開催日時: 令和3年2月7日(日)午前10時30分
2. 開催場所: 多摩平交流センター集会所
3. 総会様様: 総会のみ開催
4. 議題
 - ① 役員の選出
 - ② 2021年度三多摩支部主幹稲門会の選出に伴う執行体制

別途配布しました臨時総会の案内に同封の返信はがきに「出席又は欠席」を明記して郵送下さい

これからの行事予定

開催日	行 事 名	場 所
4月18日(日)	多摩川・浅川クリーン作戦(第12回)	浅川一番橋付近
10月9日(土)	秋の収穫祭(第23回)	実践女子大グラウンド横 畑
10月17日(日)	総会(第42回)	選定中
10月17日(日)	2021校友会東京三多摩支部大会	京王プラザホテル八王子
10月24日(日)	2021稲門祭	早稲田大学キャンパス
10月下旬	美術作品展(第2回)	ひの煉瓦ホール 展示室
2月13日(日)	新春懇談会・上映会(第5回)	多摩平交流センター 集会所

行事は、新型コロナウイルス感染拡大状況その他の事情により変更する場合があります

contents

- ・会長ごあいさつ 1
- ・イベント案内、今後の行事予定 1
- ・会員からのメッセージ 2~3
- ・新入会員紹介、イベント報告、編集後記 4

会員からのメッセージ

「お茶と私の関係」

鷹尾 清文（昭38・文学）

早大の文化サークルの一つに茶道研究会がある。流派は裏千家流と表千家流である。



昨年6月高田馬場の茶道会館で創立七十周年の記念茶会を4席設けて開催し、日野稲門会の西海様他2名の方をご招待し、合計約300名の出席者で賑わい盛会裏に終了した。その後大学に隣接するリーガロイヤルホテルで懇親会を催し、現役学生、OB、ご来賓が親しく交流し久しぶりの逢瀬を楽しんだ。お茶を始めた経緯は大学1年時の秋、大隈講堂で鎌倉円覚寺の朝比奈宗源老師の講演を聞き年末年始（4泊5日）にかけた大接心に一人で参加し座禅したことに始まる。座禅し自分を見つめる中で社会人になった時礼儀作法を身につけておいた方が良くのではないかと感得したことが動機になった。

茶道研究会には2年時に入会し、2年間はお点前の稽古で毎月4回阿佐ヶ谷の勾坂宗繁師匠宅に真面目に通ったが、3年目は卒論と就活の為適当に過ごした。この師匠は当時の裏千家家元夫人の姉様であり、また宮尾登美子の小説、「松風の家」に登場する人物でもある。

現在の茶道研究会は女性が多くなっている様だが我々の時代は男性が多く入会目的も女性友達作りの為に入会する者が多かった。OB会員は約1000名を擁しているが5年に1回記念茶会を開催しお茶と関係者の交流を楽しんでいる。

七十周年記念茶会及び懇親会終了後高齢を理由に理事の辞任を申し入れている。

「愛妻物語」 鈴木 武彦（昭41・政経）

「愛をつぐなえば 別れになるけど〜」テレサ・テンのつぐないー妻と「歌う会」でデュエットしたことがついこの間のことのように思い出される。彼女が日野稲門会に出させていただいたのは15年前になる。

私が「荒ぶる会」でラグビー観戦し、「バードウォッチング」で鳥を探したと話す早大大好き

人間は目を細めていた。青梅近郊のお宅の庭に現れる小動物を見る会合でタヌキにびっくり、ご一緒の方々と食事と会話に時を忘れた。鳥もカワセミがお気に入り、二人で浅川の散歩によく出かけた。ハイキング同好会で北八ヶ岳に登りすべってろび温泉で汗を流した。

「イモホリ会」ではお手伝い、「大学イモ」をこしらえ会場に届けた。料理が好きなので手作りスモーク・チーズをカラオケ店へこっそり持ち込んだ。「お茶を楽しむ会」は発足時からメンバーだった。

夢は「源氏物語を読む会」で隣に座り、

テレサ・テンの愛人を二人で歌うこと。

天国の妻は言うな。「イヤ!!」そして「この文のタイトルみっともない。ポーと生きてるんじゃないヨ!」



デュエット写真（2005年）

「犬の躰について一言」

中西 摩可比（昭27・政経）

日野当時から始めた多摩テックまでのジョキングは多摩に移住してから昨今では大栗川沿の遊歩道をウォーキング一万歩を目指して歩いていきます。日野時代と違って早朝のウォーキングの人数の多い事は時代を反映しているのでしょうか、また大型犬より小型犬の散歩が特に目立つのは最近の特徴です。



私が事務局長をしていたNPO法人日本救助犬協会が行っている認定試験では糞尿の為に試験にパスできない犬がおります。そこで皆さんが日頃から訓練して実行しておられる方法をお知らせしましょう。

犬と言えばつきもののなのが糞尿の問題です。犬は可愛い生き物ですが生理的にどうしても放尿や便がつきものです。便については丁寧にふき取っている方がいますが、放尿は殆ど水も持

会員からのメッセージ

参しないでそこかしこやりっぱなしで困ったものです。

糞については散歩に出る15分位前から犬の肛門に綿棒を差し込み遊ばしておくと必ず糞をします。尿についてはマーキングなので強制的にやらない方法を取ります。生後2年くらいまでにマーキングするときに「ダメ」と一言ってリールを強く引き寄せることを続けますと大概の犬はマーキングをしなくなります。

街の皆さんも失格犬にならない様頑張りましょうね。

「コロナ禍を楽しむ」

永山 肇（昭40・理工）

予想通りパンデミックだ。兎に角ワクチンができるまでひたすら我慢をすると決めた。3年前に仕事をやめていた。通勤もなければ、会議もない。勿論、毎日の飲み会もなくなった。昔の同僚や、友人との定期的なゴルフも中止となったが、暇にはならなかった。

写真教室は休会にしたが展示会用の作品作り



に野鳥や花などを求めあちらこちら歩き回る。特別給付金でズームレンズをオークションで購入した。

俳句教室の句会
はメール投句で参加する。応化同期

の句会もあり、月に9句を作るので頭を使う。ボケる暇がない。野菜作りが大変である。新町に60㎡ほど借りているが真夏の雑草取りはこたえる。楽しみは収穫と新鮮な野菜を味わえること。今は畑に8種類の野菜がある。他に7種類が春の訪れを待っている。ビデオ通話を始めた。スカイプとズームであるが年寄り相手が見つからない。ラインは前から使っているが仲間も暇になったか情報が多く入る。ツイッターとフェイスブックにもチャレンジ。暇があるから色々できていると思っているが、結構忙しく楽しんでいる。

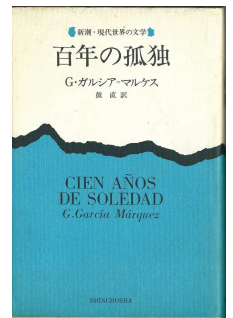
「百年の呼応」 田中 逸男（高校講師）

（昭55・文学）

前を向く一年生に黒板から私が語る。繰り返してきた風景だが違っているのは私を含めた全員のマスク。初夏にやっと対面授業が再開した。真っ黒なマスクを初めて見た異様さはブラックマジックを連想してしまう。その後英語教師が口の形を見せる透明シールドに変えた以外は、生徒も教師もいまだに互いの素顔を知らない。おしゃれなマスクは最近になって見かけるが。

三月の学年末考査直前に突然学校閉鎖となる。年度まとめの試験が消滅し職員会議は紛糾。これまでの三年を思い出に包み込む卒業式も、これからの三年への覚悟をうながす入学式も簡素化されてしまった。そんな中、はなむけかあだばなか、桜だけは長く咲き誇った。時流のリモートで見えない生徒たちとの手探り授業を経たのちに至るが、いまだ先は霧の中で見えない。

社会が文字通り病んでいても未来に向かう者たちはしなやかに応じる。背伸びした生意気と、羽目を外すやんちゃと、淡い憧れを抱きつつ。ときおりうかがい見せる笑顔も憤りも熱狂も、半世紀前に三島由紀夫や安田講堂で揺れていたあの頃の私たちと変わらない。この先に待つさまざまな試練を乗り越えたこの子たちが、老後にさしかかる半世紀後にも幸あれ。



G・ガルシア＝マルケス

第22回秋の収穫祭（芋掘り）に参加して

佐藤 賢司（平3・工研修, 平12・工研博）

卒業と同時に入会した日野稲門会の会員歴は、細く長く25年以上になります。秋の収穫祭は、今年で4回目となりました。今回は中学生になった一番末の娘と一緒に参加（お父さんとの参加を照れながら：笑）。会場に到着すると家族参加の方もいらしてひと安心。開会式では子供達のためのジャンケンゲームがあり、和やかな雰囲気の中でいざ畑へ。収穫芋の重量コンテストで優勝する

会員からのメッセージ

ぞと意気込んで、慎重にスコップで土を掻き分けました。残念ながらあと一歩で入賞は逃しましたが、土の香りを感じながら夢中になる娘の姿は昔と同じでした。

コロナ禍の中、久しぶりに晴れやかな気分になることができました。小笠原会長をはじめ大先輩方が校友会本部と交渉して今年の開催を実現させ、また、きめ細やかな対策をして下さって、このような素晴らしい時間が過ごせたと思います。この場をお借りして感謝申し上げます。

大先輩方のアドバイス通り、採れたてのサトイモは、その日の夜に蒸して、ビールと一緒に美味しくいただきました。少し寝かせると味が出るとのサツマイモは、数日後に娘によってモンブランケーキに変身し、中学生になった娘の成長ぶりを感じさせてもらいました（写真）。



収穫祭(10月24日)

新会員の紹介

☆後藤 秀機 (昭41・理工)

私は、大学教員の道を歩いてきました。7年前に定年退職してからは、著作執筆を仕事にしております。日野図書館には、「イカの神経ヒトの脳みそ」(新潮新書)と「天才と異才の日本科学史」(ミネルヴァ書房)が所蔵されております。理科系ですが、読み易く書きました。現在も、毎日、日野駅前の喫茶店で執筆しております。少し変わり種でしょうが、本年よりどうぞお付き合いの程、宜しくお願い申し上げます。

☆重光 秀俊 (昭53・政経)

10月に入会した重光と申します。2016年の秋から日野に住んでいます。学生時代は山登り(岳文会、社会人山岳会)に耽溺し、下界に居る時は主に大隈通を徘徊していました。2年前に梗

塞を患い退職し、幸い後遺症は少なかったのが今は山歩き(と言っても楽な山ですが)、読書、スポーツ観戦(ラグビー、ライオンズ等)、寄席通いに明け暮れる毎日です。当会ではハイキング同好会と荒ぶる会に参加させて戴きますので宜しくお願い致します。

☆川名 達也 (昭55・法学)

昨春会社生活を卒業したのを機に、当会に入会させて頂きました。本来群れることが好きでない性格だと自己分析していた自分ですが、17年の海外赴任から帰国後、小学校、高校のクラス会を立ち上げ、そして一昨年から大学のクラス会も始めており、その自己分析は単なる自己陶醉だったと思い知った次第です。コロナ禍でまななぬ毎日ですが、だからこそ人との繋がりが益々重要になると思っています。今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

☆浅見 茂 (昭61・商学)

このたびはお誘い下さり、誠にありがとうございました。私、翻訳を趣味としておりますが、趣味では飽き足らず、現在フリーランスの翻訳の仕事をしており、独立からかれこれ15年となりました。仕事柄外部との接触がほとんどないため、様々な交流の場が得られればと思い入会いたしました。不規則な仕事のためイベントへの参加は難しいと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

編集後記

★昨年の「秋の収穫祭」はコロナ禍による大学・校友会からの活動自粛要請の中で、唯一会員の皆さんと実施されたイベントでした。佐藤賢司さんの寄稿文にあるように、多くの家族参加を頂き楽しんで頂いた様です。ご参加の皆様有難うございました。今秋もお誘い合せてご参加下さい。(豊)
★10名の会員からメッセージいただき第2号を発行できました。ありがとうございました。第3号でも皆様の声を聞かせてください。趣味・体験談・意見・随想など内容は自由です。(耕)
かわら版編集長：五十嵐 耕一(会報担当)
編集委員：小笠原 豊、京極 英二、宮本 誠二